

第2章 環境問題の現状は？

1. 国際的な動向

環境全般 持続可能な開発目標(SDGs)

2015(平成27)年の国連サミットにおいて「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択され、2030(令和12)年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals : SDGs)」が掲げられました。

SDGs(エス・ディー・ジーズ)は、「誰ひとり取り残さない」ことを目指し、すべての国が一丸となって達成すべき17の目標と169のターゲットで構成されています。



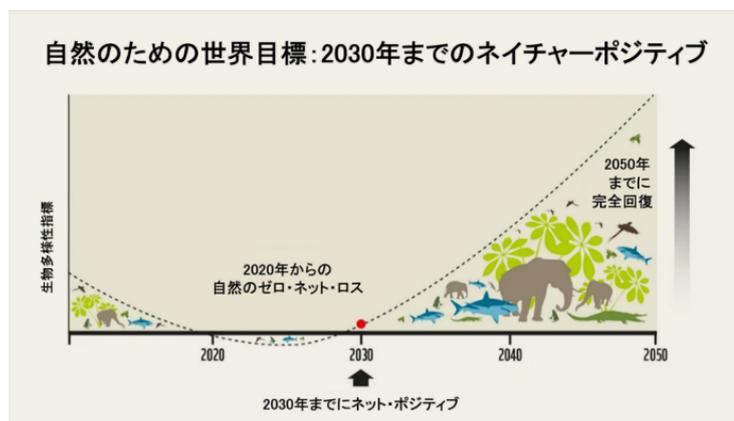
詳しくはこちら
(環境省Webサイト)

持続可能な開発目標(SDGs)の17の目標

出典:国際連合広報センター

自然環境 自然再興(ネイチャーポジティブ)

2022(令和4)年12月に開催された生物多様性条約第15回締約国会議(COP15)において、「昆明・モントリオール生物多様性枠組」が採択されました。その中で、2030(令和12)年までに生物多様性⁴の損失を止めて回復させる「自然再興(ネイチャーポジティブ)」の考え方が掲げられるとともに、2030(令和12)年までの行動目標として、30by30(サーティ・バイ・サーティ)目標⁵を含む23個のグローバルターゲットが設定されました。



詳しくはこちら
(環境省Webサイト)

2030(令和12)年までのネイチャーポジティブへの軌跡

出典:IUCN 日本委員会Webサイト

⁴ 生きものがもつ様々な個性やつながりのこと。

⁵ 2030(令和12)年までに陸と海の30%以上を自然環境エリアとして保全するという目標。

脱炭素社会 温室効果ガス排出量実質ゼロ(カーボンニュートラル)

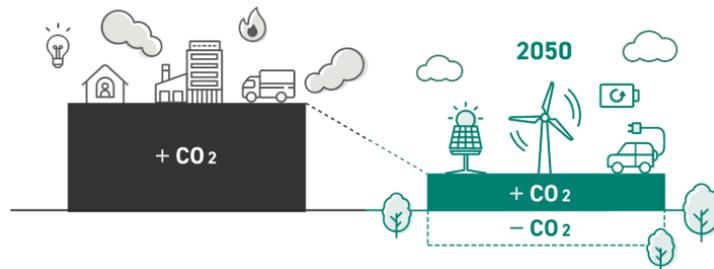
産業革命⁶以降、私たち人間は化石燃料を大量に使用するようになりました。化石燃料の燃焼や森林破壊により、二酸化炭素や一酸化二窒素などの温室効果ガスが大量に排出され、観測史上最も早いペースで地球温暖化が進行しています。

気候変動に関する政府間パネル(IPCC)が2023(令和5)年3月に公表した第6次評価統合報告書では、人間活動が温室効果ガスの排出などを通して地球温暖化を引き起こしてきたことは疑う余地がないとされています。

2015(平成27)年、国連気候変動枠組条約第21回締約国会議(COP21)において採択された「パリ協定」では、

- ✓ 世界の平均気温上昇を産業革命前に比べて2℃より十分低く保ち、1.5℃に抑える努力をする
- ✓ 21世紀後半には、温室効果ガスの人為的な排出量と森林などによる吸収量のバランスをとる(カーボンニュートラル)

といった世界共通の目標が掲げられました。



カーボンニュートラル

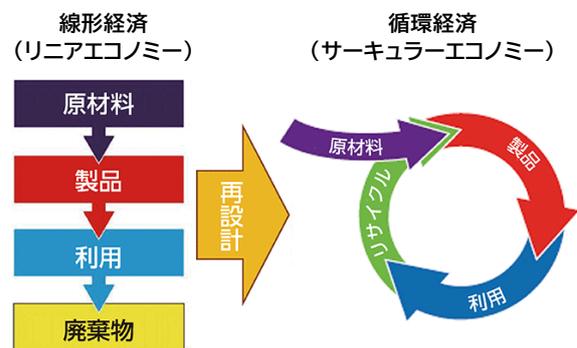
出典:環境省



詳しくはこちら
(環境省Webサイト)

循環型社会 循環経済(サーキュラーエコノミー)

産業革命以降、大量生産・大量消費型の社会が広がり、気候変動や生態系の破壊、不法投棄といった様々な環境問題を引き起こしています。製造から廃棄まで一方通行型の線形経済(リニアエコノミー)⁷から、限りある資源を持続可能な形で利用する循環経済(サーキュラーエコノミー)⁸への移行が重要とされています。



循環経済のイメージ図

出典:環境省の図を元に作成

⁶ 18～19世紀にイギリスを中心に始まった、技術革新による産業の発展及びこれに伴う社会・経済の大改革のこと。

⁷ 製品を製造し、利用後に廃棄する大量生産・大量廃棄型の経済活動のこと。

⁸ 資源投入量や消費量を抑制し、限りある資源を持続可能な形で利用する経済活動のこと。

2. 国の動向

環境全般 高い生活の質(ウェルビーイング)

2024(令和6)年5月に閣議決定された「第六次環境基本計画」では、気候変動、生物多様性の損失及び汚染(海洋プラスチックごみによる汚染など)という3つの世界的危機に直面していることが指摘され、「環境保全」を通じた「現在及び将来の国民一人一人の生活の質、幸福度、ウェルビーイング⁹、経済厚生の上昇」、「人類の福祉への貢献」を目的として、「地域循環共生圏¹⁰」の構築といった政策を展開することとしています。



詳しくはこちら
(環境省Webサイト)

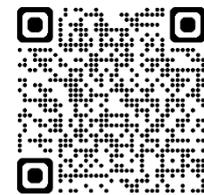
自然環境 自然共生サイト

2023(令和5)年3月に閣議決定された「生物多様性国家戦略2023-2030」は、30by30目標等の達成による2030(令和12)年の自然再興(ネイチャーポジティブ)実現を目指すものです。

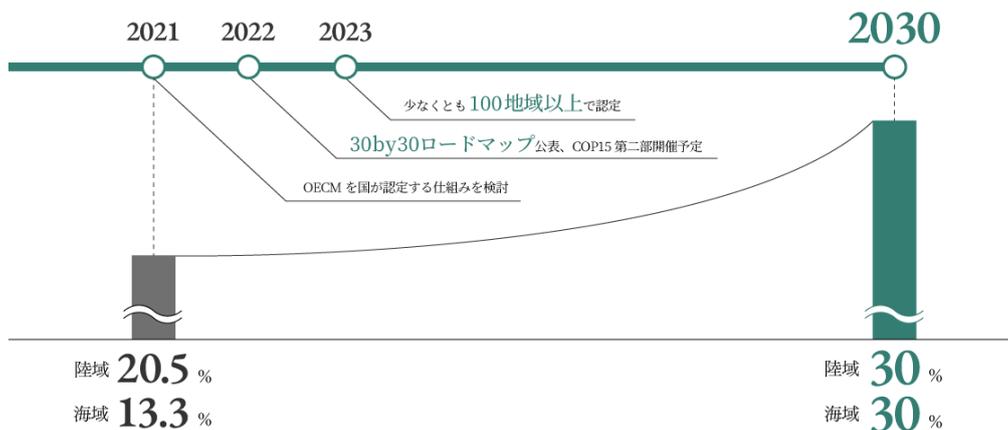
30by30目標の達成に向けて、国では2023(令和5)年に自然共生サイトの認定を開始しており、2025(令和7)年時点で328カ所が自然共生サイトに認定されています。

また、2024(令和6)年3月には「地域における生物の多様性の増進のための活動の促進等に関する法律案」が閣議決定され、ネイチャーポジティブの実現に向けて、以下の認定制度の創設等の措置が講じられています。

- ✓ 企業等が作成する、地域の生物多様性の維持・回復・創出に資する計画の認定制度
- ✓ 市町村がとりまとめ役として地域の多様な主体と連携して行う活動の認定制度



詳しくはこちら
(環境省Webサイト)



30by30ロードマップ

※2024(令和6)年8月現在の保護地域等の割合は、陸域20.8%、海域13.3%

出典:環境省

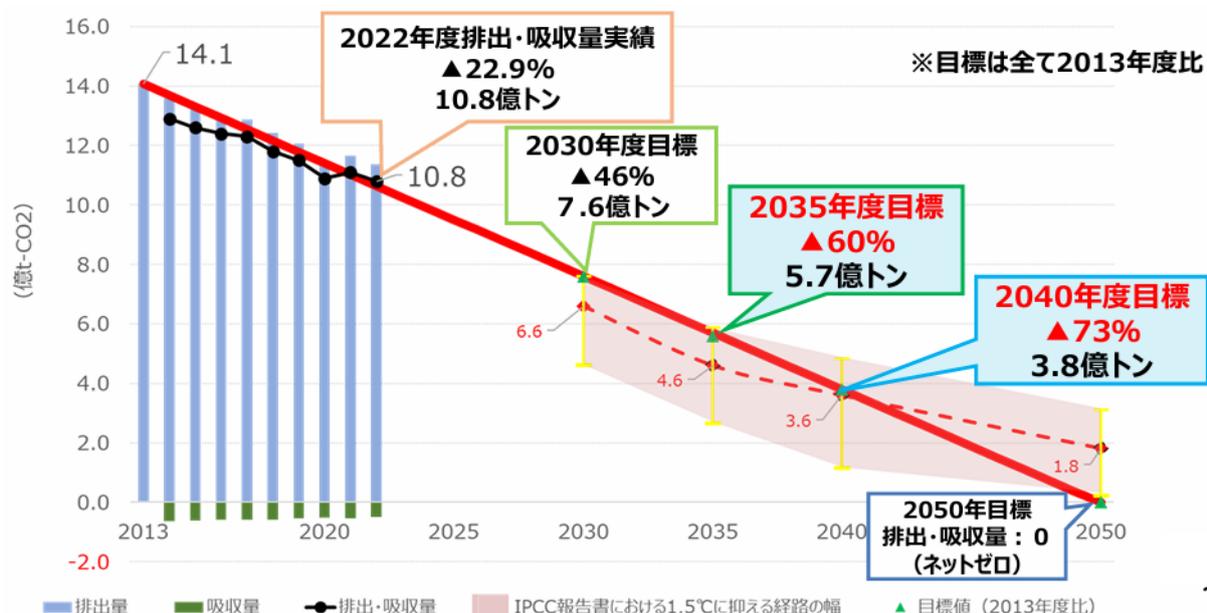
⁹ 「身体的な健康」、「精神的な健康」、「社会的充足感」の3つの要素が満たされている状態のこと。

¹⁰ 地域資源を活用して環境・経済・社会を良くしていく事業(ローカル SDGs 事業)を生み出しつづけることで地域課題を解決していき、自立した地域の形成と、地域の個性を生かして地域同士が支え合うネットワークの形成による「自立・分散型社会」を示す考え方。

脱炭素社会 2050年カーボンニュートラル宣言

2020(令和2)年10月、国はパリ協定の目標等を踏まえ、2050年カーボンニュートラルを目指すことを宣言しました。これを受け、2021(令和3)年6月に策定された「地域脱炭素ロードマップ」は、地域が主役となり、地域の魅力と質を向上させる地方創生に資する地域脱炭素の実現を目指すものです。これを踏まえ、意欲と実現可能性が高い地域からその他の地域に脱炭素への取組が広がっていく「実行の脱炭素ドミノ」のモデルとして「脱炭素先行地域」の選定が進められています。

また、2025(令和7)年2月18日に閣議決定された「地球温暖化対策計画」では、カーボンニュートラル実現に向けた目標として、温室効果ガス排出量を2013(平成25)年度比で2035(令和17)年度に60%、2040(令和22)年度に73%削減とする新たな目標を設定しています。



地球温暖化対策計画の温室効果ガス削減目標

出典:環境省資料「地球温暖化対策計画の概要」

循環型社会 循環経済への移行

2024(令和6)年8月に閣議決定された「第五次循環型社会形成推進基本計画」は、気候変動や生物多様性保全といった環境面に加え、産業競争力強化・経済安全保障・地方創生・質の高い暮らしの実現にも貢献するものとして、循環経済への移行を前面に押し出しています。

循環型社会の形成に向けて、国や地方公共団体、国民、NPO・NGO、事業者等多様な主体が連携・協働して取り組む必要があるとしています。

3. 茨城県の動向

自然環境 湖沼の水質保全

本市が流域に含まれる霞ヶ浦や涸沼は、生活排水や工場・事業場排水の流入といった人の活動の影響を受けて、水質汚濁などの問題を抱えています。

茨城県は、2021(令和3)年3月に「涸沼水質保全の対応方針 ー豊かな恵み、いこいの水辺 涸沼ー」、2022(令和4)年3月に「霞ヶ浦に係る湖沼水質保全計画」を策定し、湖沼の水質改善に向けた取組を推進しています。



涸沼の水質保全について
(茨城県Webサイト)

脱炭素社会 いばらきエコスタイル

茨城県では、環境に配慮したライフスタイルの定着による脱炭素社会の実現を目指し、県民運動「いばらきエコスタイル」の普及啓発を推進しています。

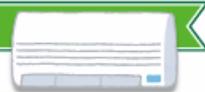
ライフスタイルを見直し、家庭や職場、移動時の省エネに取り組むことで、地球温暖化対策につながるだけでなく、家計にもやさしい取組となっています。



詳しくはこちら
(茨城県Webサイト)

身近に取り組める省エネ行動

①家庭でも職場でも冷暖房を適切に設定し、体感温度を服装で調節しよう



夏の冷房時の室温は28℃を目安に

年間で電気 **30.24kWh**の省エネ
約**940円**節約 CO₂**14.8kg**削減

(冷房温度27℃→28℃のケース(外気温31℃、エアコン(2.2kW))を1日9時間使用))

熱中症予防のため、エアコンを適切に使いましょう

冬の暖房時の室温は20℃を目安に

年間で電気 **53.08kWh**の省エネ
約**1,650円**節約 CO₂**25.9kg**削減

(暖房温度21℃→20℃のケース(外気温6℃、エアコン(2.2kW))を1日9時間使用))

②マイバッグを携帯しよう

マイバッグを利用することで、プラスチックごみが削減され、環境保全につながります。

家庭のエコスタイル

①使い方の工夫で節電・省エネ

例えば…

冷蔵庫にものを詰め込みすぎない

年間で電気 **43.84kWh**の省エネ
CO₂ **21.4kg**削減

(詰め込んだ場合と、半分にした場合との比較)

約**1,360円**節約



入浴は間隔をあけずに

年間でガス**38.20m³**の省エネ

CO₂ **85.7kg**削減

(2時間の放置により4.5℃低下した湯(200L)を追い焚きする場合(1回/1日))

約**6,190円**節約



②家電・機器を選ぶときは「省エネ型」

例えば…

電気冷蔵庫 401~450L 新旧機種比較

年間で電気 **161kWh**の省エネ
CO₂ **78.5kg**削減

(2013年製造12,860円▶2023年製造7,870円)

約**4,990円**節約



照明器具 白熱電球(54W相当)と電球型LEDランプの比較

年間で電気 **90.0kWh**の省エネ
CO₂ **43.9kg**削減

約**2,790円**節約



電気冷蔵庫1台、電球5個を買い替えると、
トータルで年間 **約20,000円**もお得に!

身近に取り組める省エネ行動

出典:茨城県

移動のエコスタイル

エコドライブのすすめ

エコドライブは燃費が良くなり経済的、そして周囲に気を配った加減速の少ない運転を実践することで、安全運転にもつながります。



加減速の少ない運転

速度にムラのない走り方で燃費向上
年間でガソリン**29.29**Lの省エネ
CO₂**68.0**kg削減

約**3,560**円節約

ふんわりアクセル「eスタート」

最初の5秒で時速20kmが目安
年間でガソリン**83.57**Lの省エネ
CO₂**194.0**kg削減

約**10,150**円節約

早めのアクセルオフ

アクセルから足を離してエンジンブレーキで減速
年間でガソリン**18.09**Lの省エネ
CO₂**42.0**kg削減

約**2,200**円節約

アイドリングストップ

ムダなアイドリングはやめよう
年間でガソリン**17.33**Lの省エネ
CO₂**40.2**kg削減

約**2,110**円節約

エコドライブすると、
トータルで年間約**18,000**円もお得に!

公共交通機関を積極的に利用しよう

電車やバスなどの公共交通機関は多くの人を一度に運ぶため、環境に優しい移動手段です。駅までの徒歩移動など、健康面でもプラスに!

燃費の良いエコカーを選ぼう

電車自動車やプラグインハイブリッド自動車、ハイブリッド自動車、クリーンディーゼル自動車など次世代自動車への乗り換えは、ランニングコストの節約にもなり、経済的です。

移動のエコスタイル

出典:茨城県

循環型社会 いばらきフードロス削減プロジェクト

2021(令和3)年7月に「いばらきフードロス削減プロジェクト」を立ち上げ、賞味期限間近の食品や規格外農産物の活用促進等に取り組んでいます。

2025(令和7)年7月からは、県内食品5業態の事業者・団体がフードロス削減の取組の実施を宣言する「いばらきフードロス削減取組宣言」の募集を始めており、宣言した事業者・団体を「いばらきフードロス削減パートナー」として、その取組を紹介しています。



詳しくはこちら
(茨城県Webサイト)

いばらきフードロス削減プロジェクト

出典:茨城県